

令和3年度 岐阜県農薬管理指導士認定試験問題

指示があるまで開けてはいけません

【 注 意 事 項 】

- 1 問題は、40問あります。
- 2 設問ごとに答えを一つ選んで、その番号を各問題右下の□に記入してください。
- 3 □に、選択肢の1～4以外の番号を記入した場合及び1～4の番号を2つ以上記入した場合は「無効」となります。
- 4 問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- 5 問題は、3ページから19ページまでです。落丁、印刷ミス等がある場合は挙手してください。
- 6 試験開始後、30分間は退場できません。また、退場した方は、再び入場することはできません。
- 7 退場するときは、問題用紙を閉じ、この面を表にして各自の机の上に置き、忘れ物のないように静かに退場してください。
- 8 下欄に「受講番号」及び「氏名」を記入して開始の合図までお待ちください。

受講番号		氏 名	
------	--	-----	--

【植物防疫一般】

問1 次の文章は、植物防疫について記述したものである。(ア)から(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

植物防疫とは、病害虫がまん延して農作物に被害を与えるのを防ぐための総合的、かつ組織的な施策であり、病害虫の今後の発生をデータ解析して予測する(ア)、農薬使用や耕種的、物理的手法等を利用した(イ)、海外からの病害虫の侵入及びまん延を防止し、農林産物を病害虫の脅威から守るための(ウ)が実施されている。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	病害虫発生予察	病害虫防除	植物検疫
2	病害虫防除	病害虫発生予察	植物検疫
3	病害虫発生予察	植物検疫	病害虫防除
4	植物検疫	病害虫発生予察	病害虫防除

解答

問2 病害虫発生予察情報について記述した次の文章の(ア)から(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

重要な病害虫が大発生することが予想され、すぐにも防除する必要が認められる場合に発表される情報は(ア)である。

(ア)を発表するほどではないが、重要な病害虫が多く発生することが予想され、早めに防除する必要が認められた場合に発表される情報は(イ)である。

新しい病害虫の発見や、重要な病害虫の発生状況が例年と異なるなど、特異的な現象が認められたときに発表される情報は(ウ)である。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	特殊報	警報	注意報
2	特殊報	注意報	警報
3	警報	注意報	特殊報
4	注意報	特殊報	発生予報

解答

問3 植物検疫に関する次の記述のうち、正しい組合せを一つ選びなさい。

ア 植物検疫は、海外からの病害虫の侵入及び国内でのまん延を阻止し、農林産物を病害虫の脅威から守るために、農薬取締法に基づいて実施されている。

イ 植物防疫所に配置された植物検疫官は、輸入検疫、輸出検疫、国内検疫、緊急防除などの植物検疫業務を実施している。

ウ 輸入検疫の対象は、苗木、観賞用植物、球根、切花、種子、果実、野菜、穀類、豆類、木材、香辛料原料、漢方薬原料などの植物であり、それらの加工品は対象としない。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正

解答

【農薬取締法】

問4 次の文章は定義について定めた農薬取締法の第二条である。空欄にあてはまる語句の組み合わせのうち正しいものはどれか。

(定義)

第二条 この法律において「農薬」とは、農作物（樹木及び農林産物を含む。以下「農作物等」という。）を害する菌、（ア）、だに、昆虫、ねずみ、草その他の動植物又はウイルス（以下「病害虫」と総称する。）の防除に用いられる殺菌剤、殺虫剤、（イ）その他の薬剤（その薬剤を原料又は材料として使用した資材で当該防除に用いられるもののうち政令で定めるものを含む。）及び農作物等の（ウ）の増進又は抑制に用いられる成長促進剤、発芽抑制剤その他の薬剤（肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第二条第一項に規定する肥料を除く。）をいう。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	カビ	展着剤	成長
2	線虫	除草剤	生理機能
3	線虫	展着剤	生理機能
4	カビ	除草剤	成長

解答

問5 次の文章は農薬の再評価制度について定めた農薬取締法第八条第一項から第四項までである。
() の中に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。

(再評価)

第八条 第三条第一項の登録を受けた者は、農林水産大臣が農薬の範囲を指定して再評価を受けるべき旨を公示したときは、当該指定に係る農薬について、農林水産大臣の再評価を受けなければならない。

2 前項の規定による再評価は、同一の(ア)を含む農薬について、農林水産大臣が初めて当該有効成分を含む農薬に係る第三条第一項又は第三十四条第一項の登録をした日から起算して農林水産省令で定める期間ごとに行うものとする。

3 第一項の公示においては、再評価を受けるべき者が提出すべき農薬の(イ)その他の品質に関する試験成績を記載した書類その他の資料及びその提出期限を併せて公示するものとする。この場合において、特定試験成績は、基準適合試験によるものでなければならない。

4 農林水産大臣は、再評価においては、(ウ)に基づき、前項の資料に基づく第一項の指定に係る農薬の安全性その他の品質に関する審査を行うものとする。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	有効成分	安全性	最新の科学的知見
2	生理活性	有効性	過去の科学データ
3	生理活性	安全性	過去の科学データ
4	有効成分	有効性	最新の科学的知見

解答

問6 次の文章は農薬取締法の第十六条に定める製造者及び輸入者の農薬の表示すべき事項に該当しないもの次の内のどれか。

- 1 登録番号
- 2 内容量
- 3 農薬の製造場の名称及び所在地
- 4 製造年月日

解答

問7 次の文章は、除草剤を農薬として使用することができない旨の表示についての、農薬取締法及び農水省令からの抜粋である。

(ア)～(ウ)にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

(農薬取締法第二十二條第二項)

除草剤販売者(除草剤の小売を業とする者に限る。)は、農林水産省令で定めるところにより、その(ア)ごとに、公衆の見やすい場所に、除草剤を農薬として使用することができない旨の表示をしなければならない。

(農薬取締法施行規則第十七條第二項)

法第二十二條第二項の規定による表示は、次のいずれにも該当する方法によりしなければならない。

- 一 表示に用いる文字が明瞭に判読できる(イ)であること。
- 二 表示に用いる文字の色が(ウ)と比較して鮮明でその文字が明瞭に判読できること

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	販売所	大きさ及び書体	背景の色
2	販売場所	大きさ及び書体	商品の包装
3	販売所	書体	背景の色
4	販売場所	書体	商品の包装

解答

問8 「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」に定める農薬の使用に関し農薬使用者が有する責務に該当しないものはどれか。

- 1 農作物等に害を及ぼさないようにすること。
- 2 人畜に被害が生じないようにすること。
- 3 農作物等又は当該農作物等を家畜の飼料の用に供して生産される畜産物の利用が原因となって人に被害が生じないようにすること。
- 4 使用残農薬は適正に処分すること。

解答

問9 農薬使用者が農薬を使用したときに帳簿に記載しなくてもよいものは次の内のどれか。

- 1 農薬を使用した年月日
- 2 農薬を使用した場所
- 3 農薬を使用した農作物等
- 4 農薬を使用した日の天候

解答

【毒物・劇物取締法】

問10 毒物及び劇物取締法第12条第2項に規定されている毒物又は劇物の容器等への表示に関する次の記述について、(ア)～(ウ)に入る語句の組み合わせとして正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

毒物劇物営業者は、その容器及び被包に、次に掲げる事項を表示しなければ、毒物又は劇物を販売し、又は授与してはならない。

- 一 毒物又は劇物の（ア）
- 二 毒物又は劇物の成分及びその（イ）
- 三 厚生労働省令で定める毒物又は劇物については、それぞれ厚生労働省令で定めるその（ウ）の名称

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	商品名	化学式	解毒剤
2	名 称	化学式	治療剤
3	商品名	含 量	治療剤
4	名 称	含 量	解毒剤

解答

問11 毒物劇物営業者に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 毒物劇物販売業の登録は、5年ごとに更新を受けなければ、その効力を失う。
- 2 毒物劇物販売業の登録の申請は、毒物又は劇物を販売する店舗ごとに行わなければならない。

- 3 毒物劇物一般販売業で登録した店舗では、農業用品目として定められた毒物劇物を販売することができない。
- 4 毒物劇物営業者は、毒物劇物取扱責任者を置くときは事前にその店舗の所在地の都道府県知事に届け出なければならない。

解答

問12 毒物又は劇物の販売業者が毒物劇物営業者以外の者に毒物又は劇物を販売するとき、毒物及び劇物取締法第14条第2項に規定されている譲受人から提出を受けなければならない書面に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から1つ選びなさい。

- 1 書面に譲受人の氏名、職業及び住所を記載しなければならない。
- 2 書面への押印は、署名があれば省略することができる。
- 3 サンプル商品に限り、書面の提出を受けず販売することができる。
- 4 書面は、販売の日から3年間保存しなければならない。

解答

【食品衛生法】

問13 食品衛生法に定められている食品の規格又は基準に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 食品の残留農薬の基準は農林水産大臣が定めている。
- 2 残留農薬基準において、人の健康を損なうおそれのない量として定められている一律基準は、0.01ppmである。
- 3 ポジティブリスト制度は、農産物と畜水産物を対象としており、加工食品は含まれない。
- 4 食品衛生法では農産物等への農薬の使用時期、使用量について具体的に基準が定められている。

解答

問 1 4 次の文章は、食品衛生法第 1 条（目的）の部分である。空欄にあてはまる言葉の組み合わせのうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

「この法律は、食品の安全性の確保のために（ア）の見地から必要な規制その他の措置を講ずることにより、（イ）に起因する衛生上の危害の発生を防止し、もって国民の（ウ）の保護を図ることを目的とする。」

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	公衆衛生	飲食物	生命
2	健康増進	飲食物	健康
3	公衆衛生	飲食	健康
4	健康増進	飲食	生命

解答

【農薬一般】

問 1 5 農薬の剤型別分類に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 粉剤とは、微粉（ $45\mu\text{m}$ 以下）となるように製剤化したもので、そのまま使用するか、水に溶解させて使用する。
- 2 水和剤とは、水和性を有し、水に懸濁させて使用する製剤であり、「フロアブル剤」なども水和剤に含められている。
- 3 乳剤とは、農薬原体に乳化剤などを加えた液体の製剤であり、有機溶媒に懸濁させて使用する。
- 4 液剤とは、水溶性の液体の製剤であり、希釈や溶解をせずにそのまま使用する。

解答

問 1 6 農薬の用途別分類に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 殺虫剤は、有害な昆虫（害虫）を防除する薬剤を指し、殺線虫剤やくん蒸剤などは含まれない。
- 2 殺菌剤は、病原細菌や病原糸状菌などの有害な菌を防除する薬剤を指し、ウイルス病防除剤は含まれない。
- 3 植物成長調節剤は、品質や収量を向上させるために、植物の成長をコントロールする薬剤

を指し、フェロモン剤は含まれない。

- 4 展着剤は、界面活性剤の一種であり、主となる成分の効果を高める働きがあるのみで、それ自体に薬効はないため、農薬には含まれない。

解答

問17 農薬の物理化学的性状と作用機構に関する記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬は、それぞれの剤型ごとに、殺虫剤はIRAC、殺菌剤はFRAC、除草剤はHRACによって細かく分類されている。
- 2 作用機構による農薬の系統分類は、害虫や病原菌、雑草が薬剤抵抗性（耐性）を持たないようにするために、農薬を選択する際に役立つ分類方法である。
- 3 使用する農薬の環境条件に関わらず、ラベルに記載された推奨方法に従って正確に使用していれば、病害虫の薬剤抵抗性が発達することはない。
- 4 植物の抵抗性誘導剤は、宿主植物に直接作用するため、植物成長調整剤に分類される

解答

問18 次の文章は、農薬の生産と流通に関して述べた文章である。（ア）～（ウ）に当てはまる語句の組み合わせのうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬の生産金額は、1996年（平成8年）に4,455億円となった後、（ア）の傾向である。そのうち、毒性別の生産金額の比率は、毒物及び劇物に該当する農薬が、普通物と比較して（イ）。国内の農薬の流通は、全農・農協を通じて流通する系統ルートと、メーカーから卸売業者を通じて流通する商系ルートに大別され、系統対商系の比率はおおよそ（ウ）である。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	横ばいから増加	低い	6：4
2	横ばいから減少	高い	4：6
3	横ばいから増加	高い	4：6
4	横ばいから減少	低い	6：4

解答

【農薬安全性評価】

問19 農薬のリスクに関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 水産動植物に対する農薬の影響評価は、水系に流出しやすい水田用の農薬以外にも、畑や果樹園用の農薬についても評価している。
- 2 土壌に落下した農薬が蓄積することにより、後作物を通じてヒトへの健康被害を及ぼすことを防止するため、土壌中での農薬の半減期が1年を超えないように設定されている。
- 3 有用生物に対する農薬の影響評価は、養蜂の面からミツバチ、養蚕の面から蚕を評価対象にして行われてきたが、養蚕地帯が激減していることもあり、現在はミツバチのみの残毒試験で評価されている。
- 4 ミツバチに対する影響評価は、成虫に対する毒性の強さと暴露実態をもとに評価されており、農薬に暴露された花粉や花蜜による巣内への影響評価は、現在のところ含まれていない。

解答

問20 農薬の毒性評価に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬の毒性評価に設定されている「一日摂取許容量（ADI）」とは、ヒトがその農薬を24時間またはそれより短い時間に摂取した場合に、健康に悪影響を示さないと推定される摂取量のことである。
- 2 農薬の毒性には、短期間に多量に摂取した場合の急性毒性と、長期間に微量に摂取し続けた場合の長期毒性（慢性毒性）がある。両者の毒性値は関係性が非常に高く、急性毒性が高い場合は長期毒性も高くなる傾向がある。
- 3 農薬の登録に際して、2020年（令和2年）4月より、農薬の毒性だけでなく、使用者の暴露も考慮した暴露量に基づく評価法が導入されている。
- 4 農薬を散布した後、その有効成分は作物体内、土壌や水中で分解・消失する。この分解過程で有効成分は様々な物質（代謝生成物）に変化するが、その代謝生成物の毒性については評価されていない。

解答

問21 農薬の残留基準に関する次の記述のうち、（ア）～（ウ）に当てはまる語句の組み合わせのうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬の残留基準等で使用される単位「p p m」とは、1 0 0 万分の1という意味であり、作物中の残留農薬では、1 p p mは1 k gの作物に含まれる（ア）の農薬に相当する。残留農薬基準値は、「一日摂取許容量（ADI）」と「急性参照用量（ARfD）」に基づいて定められており、様々な食品からの長期的な摂取量の総量が（イ）の8割を超えないことと、個別の食品からの短期的な摂取量が（ウ）を超えないように設定される。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	1 m g	ADI	ARfD
2	1 m g	ARfD	ADI
3	1 0 m g	ADI	ARfD
4	1 0 m g	ARfD	ADI

解答

問22 農薬の環境中における残留実態に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 残留農薬基準は、相当の安全性を見込んだ上で、収穫物の許容残留量として設定されているため、通常は基準値をわずかに下回る量で検出されることが多い。
- 2 河川等の公共用水域では、低濃度でも農薬が検出される事例が頻発しており、そのレベルも増加している。
- 3 水稻の栽培初中期に田面水に直接施用する農薬は、処理後の数日以内に土壤に吸着するため、水管理は処理後数日間のみ注意する必要がある。
- 4 現在登録のある農薬は、連用しても土壤に蓄積することはなく、使用しなければ分解・消失し、地下に浸透する量も非常に少ない。

解答

【害虫防除】

問23 次の殺虫剤抵抗性対策に関する記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 殺虫スペクトルが広く残効が長い薬剤は比較的抵抗性が発達しにくく、天敵にも影響が弱いものが多いので活用できる。

- 2 天敵に影響が少ない選択性殺虫剤を活用し、土着天敵や導入天敵を有効に活用する。
- 3 連続した世代に同一の作用機構を持つ薬剤を使用することが基本となる。
- 4 対象害虫の殺虫剤に対する感受性は、卵→幼虫→成虫に至るそれぞれのステージによって変わらない。

解答

問24 次の記述のうち、()に入る語句として、正しいものはどれか。

「昆虫が、自分の体外へ発散して同種の他個体に生理的あるいは行動上の刺激を誘発する化学物質を()と呼び、雌雄の間で性的刺激を誘発する()を性()という。一部の害虫では性()をほ場に設置して害虫を誘引したり交尾を阻害することにより、害虫を防除するという利用法がある。」

- 1 ホルモン
- 2 カイロモン
- 3 アロモン
- 4 フェロモン

解答

問25 次の害虫と関連する作物名および加害様式の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

【害虫】	【作物名】	【加害様式】
1 ハスモンヨトウ	ダイズ	外部から茎葉部を吸汁する。
2 トビイロウンカ	イネ	外部から茎葉部を吸汁する。
3 モンシロチョウ	ナス	幼虫が葉肉内に潜入する。
4 アブラムシ類	野菜他	地際部を加害、食い切る。

解答

【病害防除】

問26 次の文章は、主な植物病原の種類と性質に関する記述である。A～Dにあてはまる適切な語句の組み合わせのうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

植物に病害を引き起こす主な病原には、ウィルス、細菌、糸状菌がある。これら病原の大きさは、小さい順に（A）である。ウィルスは（B）や傷口などを介して植物体へ侵入し、細菌は植物体表面の（C）や傷口などから侵入する。これに対して糸状菌は、自然開口部や傷口のほか（D）などから侵入することができる。

	(A)	(B)	(C)	(D)
1	糸状菌<細菌<ウィルス	空気中	角皮	皮膚
2	細菌<ウィルス<糸状菌	花卉	ワックス層	昆虫による媒介
3	ウィルス<細菌<糸状菌	昆虫による媒介	自然開口部	角皮
4	ウィルス<糸状菌<細菌	種子	導管	傷口

解答

問27 次の文章は病害の主要な防除法について述べたものである。正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 化学的防除法とは、微生物農薬や天敵を用いて病原体を制御する防除方法である。
- 2 生物的防除法とは、抵抗性品種を用いて病原体を制御する防除方法である。
- 3 抵抗性品種や抵抗性台木の利用は、気象環境を制御して発病を軽減する方法である。
- 4 物理的防除法とは、病原体に汚染された種子や土壌を熱処理などで殺菌または不活化したり、紫外線カットフィルムで病原菌の孢子形成を阻害させることによって病原体を制御する防除方法である。

解答

問28 殺菌剤耐性と防除対策に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 殺菌剤の使用は、同系統の防除効果が高い剤を連用するほうが良く、耐性菌も発生しない。
- 2 殺菌剤を散布する際には、他系統剤とローテーション（輪用、交互使用）すれば、耐性菌

が発生することはない。

- 3 殺菌剤のうち、特異作用点阻害剤は一般的に耐性菌の発生リスクが高い。一方、多作用点殺菌剤は一般的に耐性菌の発生リスクが低い。
- 4 同一系統の殺菌剤であっても、商品名が異なれば「交差耐性」になることはない。

解答

【雑草防除】

問29 次の水田雑草のうち、多年生雑草を一つ選びなさい。

- 1 クサネム
- 2 コナギ
- 3 イヌビエ
- 4 ミズガヤツリ

解答

問30 雑草の防除方法に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 除草剤は、エネルギー代謝、生体成分合成などを阻害して、殺草作用を表すものである。
- 2 除草剤は一般に高温ほど活力が高まり、どんなに高温であっても作物に薬害を起こすことはない。
- 3 除草剤の茎葉処理剤は、雑草の発生前もしくは発生始期に土壌表面に散布して、雑草の発生を抑えるものである。
- 4 除草剤は、決められた使用時期を誤っても除草効果は劣らない。

解答

問31 雑草の特性に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 一般に、多年生雑草の多くは地表面近くにある種子が発芽するが、一年生雑草はそれよりかなり深いところからでも発芽する。

- 2 一年生雑草は、1年間のある時期に植物体が枯れて種子だけで過ごすものを指し、多年生雑草は、地上部が枯れても根茎や球茎など体の一部が残り、そこからまた成長するものを指す。
- 3 イネ科雑草のヒエは、水田にしか発生しない。
- 4 多年生雑草の塊茎などは、低温・乾燥に強いので、秋耕によって地表面に露出させても死滅して減少することはない。

解答

【農薬安全使用】

問32 農薬に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 自家消費のために農産物を栽培し農薬を散布する場合においても、「農薬を使用する者が遵守すべき基準」（農薬使用基準）に従う必要がある。
- 2 航空機（有人ヘリコプター）を用いた農薬使用者のみが、農薬使用計画書を農林水産大臣に提出する必要がある。
- 3 DDT、BHC、パラチオン等27種類の農薬は、「農薬の販売の禁止を定める省令」により販売が禁止されているが、これらを使用することは罰則の対象にはならない。
- 4 農薬を使用した際、農薬使用基準に定められた様式で作成された帳簿（使用記録簿）に農薬を使用した年月日などを記載する必要がある。

解答

問33 農薬のラベル表示に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ラベルに記載された希釈倍率は、目安であるため、病害虫が多発した場合は、より高濃度の倍率で散布しても問題ない。
- 2 農薬の適用農作物は製剤（剤型）によっても異なるため、同一の有効成分を含有する農薬であっても、ラベルに表示されている記載内容を確認し、必ず適用の有無を確認する。
- 3 使用時期が「収穫45日前まで」の農薬を散布した後、天候の影響から農作物の生育が早まり、適期収穫日が農薬散布35日後になってしまったが、農薬散布後1か月以上経過しているため、適期収穫日に収穫・出荷しても問題はない。
- 4 最終有効年月を過ぎた農薬は、未開封であれば品質に問題がないと考えられることから、

それを使用しないよう努める必要はない。

解答

問34 農薬の安全使用に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 直射日光の当たらない冷涼な場所で農薬を保管するために、食品と一緒に入っているが冷蔵庫の中で保管したほうが良い。
- 2 農薬散布時に使用するマスクには、農薬用マスク、防護マスク、吸収缶付き防護マスクなどがあり、使用する農薬の種類や毒性に合わせた適正なマスクを選択することが重要である。
- 3 農薬は人体に対する安全性が確認されているため、農薬散布液の調整時や農薬散布時には、ビニールなど不浸透性の手袋より、洗濯して再利用できる軍手など布製の手袋を用いるのが良い。
- 4 ゴーグル型の保護メガネは、着用して農薬散布をすると中が曇って作業に支障をきたすため、使用しないようにする。

解答

問35 農薬の使用上の注意点に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬散布は、原則として暑い日中を避け、涼しい朝夕に行う。また、早朝の涼しい時間帯は、下降気流があり、散布粒子や微粉が地上に落ちやすい。
- 2 施設栽培などで農薬散布を行う場合、散布による農薬の身体への付着量は、後進しながら散布するより、前進しながら散布したほうが少なくなるため、前進しながら散布した方が良い。
- 3 農薬の容器が古くなった場合は、ペットボトルなどの容器に移し換え保管を行う。
- 4 農薬は人体に対する安全性が確認されているため、体調が優れない時に農薬に接触しても中毒になることはない。

解答

問36 農薬散布時の周辺住民への配慮及び飛散防止に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 公園や街路樹等では、病虫害の発生を未然に防ぐ必要があるために、定期的に農薬散布による防除を行うことが重要である。
- 2 公園や街路樹等の防除では、農薬散布中に立て札や立て看板を設置すれば、事前に周辺住民に対して、回覧板、チラシなどで十分に周知する必要はない。
- 3 住宅地やその周辺等での農薬散布は、事前に十分な周知を行ったうえ、無風または風が弱い時など、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して行う。
- 4 ドリフト（飛散）低減ノズルは、散布粒径が大きいいため、風が強い日でも十分な飛散低減効果が期待できる。

解答

問37 農薬散布時の環境への配慮及び作物残留に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 すべての農薬は登録に際して、家畜、ミツバチや蚕などの有用昆虫、水域の生活環境動植物等への影響について、その安全性が確保されているため、それらに対して配慮する必要はない。
- 2 水田で使用する農薬は、散布後すぐに土壌に吸着されるため、散布直後に落水をしてもよい。
- 3 農薬が周辺農作物に飛散した場合でも、農薬は速やかに分解されるため特に問題が生じることはない。
- 4 散布器具のタンクやホース内に薬液を残したまま別の作物に使用すると、不慮の農薬残留につながるおそれがあるため、農薬散布後にタンクやホースの洗浄をしっかりと行うことが重要である。

解答

【農薬管理指導士の任務】

問38 農薬管理指導士に関する次の記述のうち、正しい組合せを一つ選びなさい。

- ア 農薬管理指導士は、農薬使用者等に対し、農薬取締法その他農薬に関する法令の遵守、農

薬の安全かつ適正な使用等について指導又は助言を行う。

イ 農薬管理指導士は、農薬販売業務に携わることができない。

ウ 農薬管理指導士の認定期間は3年間であり、自動的に更新される。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	正	誤

解答

問39 農薬管理指導士に求められる資質に関する次の記述のうち、(ア)～(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬管理指導士は、その任務を確実に実行するために、常日頃から自らの資質の維持・向上に努めることが必要とされる。農作物などの安定的な(ア)に不可欠な農薬が、いかにしてその(イ)が確保されているかを理解し、農薬の適正使用に関する認識を深めた上で、農薬取締法など関係法規、農薬の特性、(ウ)、病虫害・雑草の発生生態や防除に関することなど、農薬全般に関する一般的な事項についても十分な知識を有することが求められる。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	流通	採算性	農薬の販売方法
2	生産	採算性	農薬の販売方法
3	流通	安全性	農薬の適正使用方法
4	生産	安全性	農薬の適正使用方法

解答

【最近の動向】

問40 次の文章は、農業生産工程管理(GAP)の定義について述べたものである。(ア)から(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農業生産工程管理(GAP)とは、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定

められる（ア）に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、（イ）、点検及び評価を行うことによる持続的な（ウ）である。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	点検項目	記録	改善活動
2	防除項目	確認	農業活動
3	点検項目	生産	改善活動
4	防除項目	記録	農業活動

解答

